

湘南 vs 栄光

ペガサス 65 角皆茂樹

昭和 28 年 9 月 6 日、国体県予選 2 回戦。この試合が湘南高校と我が母校栄光学園の最初の対決であった。対決といっても当時湘南は輝かしい実績を誇る強豪県立高校、栄光はサッカー部創部からまだ日も浅い無名私立高校、勝負にならないと思われたが、0 対 1 と善戦し、爾来両校は、ほぼ毎年公式戦や練習試合で対戦してきた。その時期、栄光サッカー部では現役部員が「ダッシュ」という機関誌を毎年発行していて、廃刊となった昭和 38 年までの熱戦が選手達の手で生々しく記されている。

その間の対戦は計 14 回。中でも大一番は、昭和 36 年の関東大会予選の準決勝だったようだ。場所は昔の県営藤沢グラウンド、勝てば本大会出場とあって湘南は女子高生を含む約千人にブラスバンドを加えた賑やかな大応援団を送り込んできた。栄光も負けじと、男ばかりの中高生と先生の百人ほどが大声で対抗し、試合は激闘延長の末、栄光が 2 対 1 で勝利を掴んだのである。（後日湘南も本大会への出場権を得て決勝まで勝ち進んだが、浦和市立に敗れて優勝を逃した。）全 14 試合に於ける得点は、湘南の 29 に対し栄光は 22、勝敗は 6 勝 6 敗 2 引分の全くの五分であった。

また「ダッシュ」には、湘南の岩淵先生・鈴木先生のお名前が頻繁に登場する。とりわけ当時神奈川県サッカー界の重鎮でおられた岩淵先生に、栄光の悪童達は度々厳しいお叱りを受けたようだが、こんな記事もある。昭和 31 年のインターハイ予選決勝（対甲府商）で、「栄光の応援に来て下さった岩淵先生、栄光勝利に我が事のように喜ばれ『オメデトウ』と外套のポケットからミカンを二つ選手に握らせる。皆一フサづつ分けてもらって『岩淵さんのミカンだ』とうやうやしく口に入れる」。

その時代から半世紀余りが過ぎ、今の高校サッカーに残念ながら強豪校としての両校の名前はない。しかし、60 雀サッカーでは湘南ペガサスと栄光シニアが、昔と変わらず互角の戦いを続けている。筆者は栄光シニアを経て、数年前に長年のライバルであったペガサスの一員に加えて頂き、来年はいよいよ O-70 である。そしてこれからも体が動く限りお世話になる積もりである。

末筆ながら湘南ペガサスの創立 40 周年をお祝い申し上げ、今後のますますの飛翔を祈る。